

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693000081		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社 京都支店		
事業所名	長岡京市ケアハーガーデン グループホーム 今里 (1Fなでしこ)		
所在地	〒617-0814京都府長岡京市今里畔町21-1		
自己評価作成日	平成27年3月30日	評価結果市町村受理日	平成27年7月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2693000081-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・サービスを提供するにあたり、常にチームケアである事を意識し、その方を取り巻く様々の関係者との連携に努めていること。 ・室内の季節感溢れるディスプレイ制作や外レクリエーション、色々な催しを通じて今里で暮らす皆様に楽しんで過ごして頂けていること。 ・働く職員の環境の改善や希望事項、相談等も参考に、充実し安心感を持って業務に望んでもらえるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該ホームは利用者の作品作りや事業所内でのイベント、季節毎の外出以外にも水族館や外食、買い物など毎月外出計画を立て楽しみのある暮らしの実現に向けて様々なことに取り組んでいます。職員はチームワーク良く日々の業務の中でも笑顔を保つよう心がけ、利用者のその人らしさを大切に支援しています。また、利用者の日々の些細な言動などから得た思いや気づいたことをシートに記載し、その方にとって最適な関わりについて職員間で話し合い介護計画に反映させるよう努めています。家族との関係も良好で必要に応じて家族カンファレンスを行い、話し合う機会を多く持っています。年度末の運営推進会議には多くの家族参加があり活発な意見が出ており、必要に応じてアンケート調査も行い結果をサービスの向上や改善等に活かしています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の育成については、全社的に取り組んでおり常にケアの質の向上を意識した運営を目指している。理念に関しても具体的な意味、解釈も周知徹底している。	法人の理念を基に事業所独自の理念を作成し玄関に掲げています。職員の入職時に法人理念について説明を行うと共に会議や朝礼時など事あるごとに話し合い、確認や振り返りを行い、理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な近隣への散歩や夏祭り等を通じて積極的に地域との交流の機会を設けている。近所の住人の方によるボランティア活動も年々定期化してきている。	日々の散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり、地域住民から情報を得て地域の夏まつりへの参加、小学校の運動会を見に行くなど地域との関わりを深めています。紙芝居や習字などのボランティアの来訪や地域の方の多くの支援を受けながら地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会、納涼際等にて協力者してもらおうと共に馴染みの関係を築くことが出来つつある。入居目的以外の方々の相談、見学も気軽に受ける等、より理解を深める方向性を事業所全体で掲げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催時には、当ホームにおける日常をより深く理解していただくために、ホーム便り等を資料として提示。年に一度は家族会的な運営推進会議を開催する事で、より多くのご家族様よりの意見を素に日常のサービスに活用している。	会議は民生委員や家族、市職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。その時々テーマに応じて医療従事者など多職種の方に参加してもらうこともあります。事業所からの近況、行事報告等の後、参加者との意見交換を行っています。会議で受けた意見を基に訪問リハビリや訪問歯科を利用するなどサービスに反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的開催されている市町村主催の連絡会に参加している。運営推進会議、家族会に高齢介護課の担当者の方も参加有	運営推進会議に市職員に参加してもらい事業所の理解を得ています。また、市職員の参加するグループホーム連絡会や療養手帳の会等の集まりに参加し情報交換を行うと共に連携を図るよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に施錠は行っていないため常に自由に出入りできる状態にある。身体拘束は禁止事項である事実を職員全員が周知しているが、研修は毎年の必須研修であると認識し実施している。	年間計画に基づき全職員に対して身体拘束についての研修を行うなど職員への周知に努めています。時には管理者が具体的な事例を基に質疑応答も含めて研修の機会を持つなど職員の理解に繋がっています。玄関やユニットの入口は施錠せず、散歩の機会を増やしたり出たい様子が見られた時は職員が付き添うなど閉塞感のないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為も上記の身体拘束と等しく禁止項目であることは皆、周知しているが、より理解を深めるべく必須項目として毎年研修を行っている。		

長岡京ケアハートガーデングループホーム今里(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームにおいては、成年後見制度を利用されている入居者も数名おられ、制度そのものについて理解している者も少なくはない。ユニット会議等での話題としても時折、取り上げている。最近では外部研修へも積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず家族、本人の事前見学を設定し、契約に関しては基より日常生活やその他の様々な疑問点についても十分に時間をかけて説明した後、契約を締結。そして、改定等の際は説明会や、書面の送付等にて理解、納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議とは別に家族、関係者を交えた家族カンファレンスを必要に応じて開催している。毎年3月には多くの家族様参加の推進会議も実施している。時折、アンケート等も利用するなど皆様の意見や要望の汲み上げには積極的に取り組み出来る限り運営に反映させるよう努めている。	運営推進会議や家族カンファレンス、面会時、電話等で意見や要望を聞くようにしています。プライバシーの保護や職員の名前が分かるようにして欲しいなど多くの要望が出ており、職員がユニホームに名前を入れるなど得られた要望は職員間で話し合い日々の支援に反映させたり、改善に向けて取り組んでいます。結果については広報誌などを通して家族に報告をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度はUL会議、ユニット会議を開催。半期に1度は職場懇談会。年に1度は上長との個人ヒアリング。これらの機会以外においても必要に応じて意見交換の機会を設け職員の意見や提案も事業運営に反映させるように努めている。	会議や申し送り時、日々の業務の中で意見や提案を聞いています。また、レクリエーション委員会など担当を通して意見を聞くこともあります。誕生会の企画など出された意見は検討し、日々の支援に繋げるなどサービスに反映させています。個別面談時も意見を出したり、相談ができる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれにあった雇用条件での契約を締結している。初年度、更新時においては上長による個人ヒアリングの機会を設け、各職員の現状や今後の取り組み等を確認し		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、各ユニットごとに必要な項目を検討し内部研修を計画し実施している。内容に応じては、専門職(医師、看護師、歯科医、歯科衛生士、安全担当)による研修もある。OJTを推進しており、職員個々に合った外部研修の受講に関しても支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同経営下介護サービス事業所との交流に加え、近隣の他事業者(特にGH)への見学や行事等への参加を通じ互いに学び、意識向上へ繋げている。地域における新規事業所の内覧会等へも積極的に出向き友好関係の構築を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人面談、見学は必須事項と設定し、充分なコミュニケーションの機会を設けた後の入居決定をお願いしている。ご要望に応じて体験入居(無料)も受けており安心して利用していただけるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時より入居に至る経過や動機、現在の課題点等のヒアリングに時間をかけている。そして、入居が決定した後の面談においてはホームに対してご家族が望むサービスについて等お互いの理解を深め、共に協力し合える関係づくりのために、何度でもカンファレンスを開催する。場合によってはかかりつけ医、支援専門員、包括支援センターの方々にも協力を依頼している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり必要な資源(ベッド、車椅子)等の業者の紹介から日常的に必要な支援関係者に至るまで(かかりつけ医の往診、訪問歯科、訪問理美容)等要望に応じ代行し手配している。ご相談あれば有償のサービス(訪問ヘルパー、化粧療法、介護タクシー)等の利用も手配するなど「その時」にふさわしい支援展開を尽くしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時にご家族へ基本情報シートの記入を依頼している。それらを参考に、これまでの生活歴、趣味、嗜好、思想等できる限りその方を理解し接することを心掛け、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居においては共に協力し支援していくことを理解してもらい、面会時における家族の方々との情報の共有にも努めている。ホーム便りや個人アルバムを通じて日常の生活状況の周知にも努めている。必要に応じて家族カンファレンスも実施。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人等どなたでも気軽に訪問して頂けるよう配慮している。馴染みの場所へ出掛けて行ったり、自宅への外出や外泊等、ご家族とも連携し出来る限り馴染みの関係を継続されるよう支援している。	同僚や教え子、孫などの来訪があり、居室で気兼ねなくゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。基本情報から馴染みの関係を把握し家族の意見も考慮しながら懐かしい場所へ散歩に出かけたり、家族の協力を得ながら自宅で過ごしたり、家族と旅行に出かける準備などの支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各個人の尊厳や個性を尊重しつつも、ホームでの快適で良好な人間関係を構築されるよう外出先や同行者にも充分に配慮してイベントを企画している。日常においても、座席や役割等も人間関係を考慮し尚、平等性に欠けない支援に努めている。		

長岡京ケアハートガーデングループホーム今里(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了した後も本人・関係者等との関係を大切にしておき、望まれる場合は相談も受けている。ご紹介、親戚関係よりの入居の方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居に当たり主介護者の方にアセスメントシートの記入を依頼している。入居後は面談時の家族、本人のヒアリングとシートより知りえた情報を基にこれまでの生活歴の理解に努めている。入居後は職員追記、更新により、現在に応じた個人プランの充実に繋げている。	初回の面談時に利用者・家族からこれまでの暮らしや身体状況、意向などを聞き取り思いの把握に繋がっています。基本情報については家族に記載してもらい、入居後の会話や様子等から知り得た情報はシートに追記し職員間で共有すると共に意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当の支援専門員、かかりつけ医よりの情報収集に加え家族、親戚等、関連する方々の協力により基本シートの作成によるその方の暮らしの把握に最善を尽くしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人に日々24シートの記入を実施している。それにより、日常における生活状態、健康状態、精神状態等も各々の職員が把握しその時に沿った支援展開を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族カンファレンスや担当者会議等複数の意見を取り入れた課題抽出による介護計画作成し、必要に応じて追記、更新等に努めている。モニタリングにおいてもユニット全員で取り組み、次回のプランに繋げている。	利用者、家族の意向やアセスメントを基に介護計画を作成しています。6ヶ月毎に全職員がモニタリングを行い、カンファレンスで計画の進捗状況の確認や状況の変化、新たな提案等について話し合い見直しに繋がっています。状況に変化があった場合は随時カンファレンスを行い現状に即した介護計画となるよう取り組み、家族カンファレンス等で聞いた家族の意向や必要に応じて医師からの医療情報等を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子については申し送り表や24時間シートに記録を義務付けている。それらの記録を職員間での情報共有に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでも訪問理美容や訪問歯科診療、訪問介護(有償)、福祉レンタル(自己負担)の導入等ご家族からの要望を受け導入している。昨年はチェアエクササイズ、化粧療法等も新たにスタートした。新規サービスの開始にあたりアンケート等でニーズを把握し柔軟に対応している。		

長岡京ケアハートガーデングループホーム今里(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回は消防署立会いによる避難訓練、消化訓練の実施している。近隣の自治会主催による盆踊りへの参加やボランティアの方々の協力による紙芝居や書道教室等を取り入れ安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の意向を重視し往診、通院とそれぞれ選択されている。人によっては、かかりつけ医も複数設定されている。薬局(院外処方)や訪問歯科診療、往診医、受診の予約に至るまでご要望あれば支援している。又医師よりの依頼あれば受診に同行する場合もある。	入居時にかかりつけ医の選択ができることを説明し、家族、利用者の意向に沿ってかかりつけ医を決めています。受診は家族が同行しており、介護サマリーにて情報提供を行っています。状況に応じて職員が受診同行を行なうこともあり、調剤等も含めて受診結果を家族に報告しています。また、協力医は月2回の往診があり、24時間連携可能となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが、NSが勤務に携わっており、必要に応じて相談や助言の機会を設けている。 24時間オンコール体制であるため、緊急時の対応も兼ねている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至ってはかかりつけ医により医療機関との連携により迅速な対応が図れている。入院された後は家族、入院先の相談員等と連携に努め、面会へも伺っている。現在の状況の確認と今後備え主治医や連携室とのやり取りも積極的に取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約書に添付してある、「重度化した場合の対応に関わる指針」に基づき契約前に将来的に起こるかもしれない事態を想定した説明も行い、方向性の同一化に努めている。	入居時に重度化した場合の対応について伝え、食事が摂れにくくなるなど身体状況に変化があった場合はかかりつけ医の意見を聞きながら家族と話し合いを行い、介護職が対応できる範囲で支援を行うことを伝えています。現状では病院、施設など入院や入所先の紹介を行い、身体状況が安定しない場合には入院するまでの間、事業所としてできる範囲での支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに伴う研修の実施。 各ユニットに緊急連絡網を備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力も得て避難訓練を定期的に行っている。訓練を行う際、事前に近隣の方々へ連絡している。開設前の内覧会等でご近所の方々にも見学をお願いし、緊急時における協力も依頼している。	年2回消防署立ち合いの下、昼夜間想定で地震や火災時の避難誘導や職員間の連携の取り方などの訓練を行っています。地域には訓練の案内を行うと共に近隣に住んでいる法人関係者に災害時の協力依頼をしています。訓練内容は運営推進会議で報告をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員は基本情報よりそれぞれの情報を把握し日常の支援に活かしている。しかし、個人情報保護法、秘密保持の意味を理解周知しているためプライバシーに係る事柄は他者に聞かれぬよう離れた場所でそっと耳打ちするなど工夫している。	法人内年間研修計画に沿って接遇に関する研修を全職員対象に行い、周知しています。また日々の業務の中でも話をして職員の理解を深めています。特に排泄時の声掛けには注意を払い、言葉遣いについては管理者が常に指導を行っています。不適切な対応が見られた場合はその都度注意をしたり、会議で話し合うこともあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り入居者に寄り添い、それぞれの思いや、言動に傾聴、注目し自己決定しやすい環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も入居者ペースを心掛け、各個人が快適に過ごせるよう配慮している。その方の希望に少しでも近づけるようユニット皆で工夫し改善を重ねながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回は訪問理美容が設定されている。その方に応じてカット、顔そり等のサービスを受けられる。入居者の好みを尊重しつつTPOに合わせた服を選んでる。洗顔、化粧水等の購入も支援している。昨年6月より化粧療法も導入し定期的に開催している。皆さん楽しそうに参加しておられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に応じた形態で提供している。週2回は(水、土)おやつも手作りのものを提供している。出来る方に関しては、一緒に下ごしらえや盛り付け配膳等もお伝いして頂いている。時々外食も楽しんでいただいている。	献立は食事アンケート結果や季節感を取り入れ、一週間単位で管理者が立てています。利用者には野菜の下ごしらえや配膳、下膳等できることに携わってもらっています。おせち料理やクリスマスのおードブル、流しそうめんなど季節に応じた行事食も手作りで提供し、時には外食や弁当などの出前、手作りおやつなど食事が楽しみなものとなるよう、様々なことに取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分の摂取量、排便、排尿等を日々記録し日常の健康管理の目安としている。夜間は各居室へ配茶しているが、時間設定や量に関しては季節に合わせて変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。夜間は義歯を預かり洗浄剤に清潔の維持を支援している。口腔内のトラブルは訪問歯科医の診察時に伝達し早期解決へ繋げている。歯科医、歯科衛生士による研修を通じて口腔ケアの大切さを周知徹底している。		

長岡京ケアハートガーデングループホーム今里(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の回数を記入し、日々の排泄リズムの把握し日常の体調管理の目安としている。入居者方のその日の状態に応じた支援を心掛け実践している。	昼間はトイレでの排泄を基本とし、排泄記録を基に個々に合わせた声掛けやトイレ誘導を行っています。それぞれに適した支援の方法について職員間で話し合い、手押し車や歩行器など様々な機器の利用なども検討し、自力でトイレ移動が可能になるなど適切な支援を行うことにより失敗が減ったことで、日々の生活が意欲的になっている方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩を日課として設定している。十分な水分の提供も心掛けている。排便の記録により最終排便日時を常に把握し、適宜かかりつけ医との連携を図っている。* 昨年よりエクササイズも導入		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の体調や面会、外出等の予定にも配慮しつつ最低週に3回は入浴を支援している。入浴剤を使用する事でお湯の色や香りを楽しみながら入浴されている。	週3回を目途に9時から夕方まで入浴できるように準備をし、希望があれば毎日の入浴もできるだけ対応しています。入浴を拒否される方には時間を変えたり、同性介助など工夫をしながら、無理強いせず入ってもらっています。タオルなど好みの備品を持ち込んだり、入浴剤を使用しゆっくりと楽しんでもらっています。個々に湯を入れ替え衛生面にも配慮しています。浴室には身体状況が低下しても安心して入浴できるようリフト浴の設置もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に御自身ペースで日常生活を過ごして頂いている。日中の休息もご自由に取って頂いてはいるが、長時間の休息で夜間不眠状態に陥られないようにその方に適した日中の活動(散歩、家事手伝い)やレクリエーションを支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストにより内服薬の目的や副作用等周知徹底を行っている。変更についてもタイムリーに申し送りノートを記入するなど情報の共有に努めている。薬剤管理指導を受けている方がほとんどのため薬剤管理、服薬に関しても専門職との連携を図り指示、指導を活かした支援を常としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本情報を基に日常生活より、人物像を推察しつつ家族の意向を汲み、ご本人の意思に添った役割や楽しみごとを見だし日課として定着できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各入居者に合わせた散歩コースを設定し定期的にも外出の機会を設けている。外出の頻度についても記録による把握に努めている。年間を通じて、事業所の催しとして季節感を重視した外出の催しも実施している。外出先も水族館や映画村、ショッピングモール等工夫しており日常とは異なる時間を楽しんでいただけている。	天気が良ければ散歩に出かけたり、地域の祭りなどに参加することもあります。季節毎に初詣や桜の花見、紅葉狩り等の外出を企画したり、毎月の外出の機会として、外食や買い物、水族館、映画村などにも出かけています。法人の会館で行われる納涼祭では家族と共に楽しんだり、時には庭に出てお茶を飲みながら外気浴をすることもあります。	

長岡京ケアハートガーデングループホーム今里(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームはすべて立替制となっている為、入居者されている方々が現金を扱う説定がない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況によっては、代行で家族に連絡を取る場合もある。手紙や年賀状等のやり取りを通じて馴染みの方々と友好関係を継続されることにも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット担当者を中心に、季節をテーマにしたディスプレイに取り組んでいる。入居者も制作に参加されるため完成後に見て楽しむだけではなく、レクリエーション的な要素も果たしている。食事中やレクリエーション中は音楽を流す等、雰囲気作り心掛けています。	リビングやフロアの随所に観葉植物や利用者の作品、写真が飾られています。テーブルの上には花が飾られ季節を感じることが出来ます。ソファもゆったりと配置されテレビを見ながら寛いで過ごせるよう工夫されています。テーブルの配置にも配慮し、状況に応じて配置変えも行っています。換気に留意し温湿度計により空調管理を行うと共に空気清浄器を設置し快適に過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルーム、食堂は常に自由に利用して頂ける。食事や作品の制作、TV観賞、おしゃべり等それぞれ思いのままに利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具類全てが私物である。入居にあたり出来るだけ馴染みの物を持ち込んでもらうようリクエストしている。基本的には食器類に関しても各個人用を使用してもらう等なるべく以前の住居に近い環境作り配慮している。	入居の際に、使い慣れたものを何でも持ってきてもらうよう伝え、テーブルやソファ、タンス、鏡台、小物入れなどが持ち込まれています。動線を考慮して配置し、居室内での移動が困難な場合はポールを設置するなど安全面にも考慮しています。また家族の写真や小物、好きな本などを持ち込まれその人らしく過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に使用状況が明確に判断できるよう掛札を作成したり、居室に表札を掛ける等、認識し易い工夫をしている。		